

今年の抱負 高井 睦美

この地に虹の家が誕生して8年。今年はこれを今後も継続させていくための運営上の諸問題にきちんと対応する年にしていきたいと思ひます。

具体的な案については理事会やその他の機関とも相談しながら実現できるところから実践に移す方策を模索していきたいと考えています。

虹の家がこの新木野で展開してきたことを大事にしながら、今後益々その必要性が高まっていくだろうと思ひます。そんな地域のニーズにも対応できる虹の家でありたいと願っています。



認知症介護指導者研修を受講して

片田 清子

9月11日～11月11日までの9週間、認知症介護指導者研修を受講させていただきました。東京センターは関東地方と九州地方と新潟県の17名の受講者で大変多く刺激を受けてきました。他事業所の問題解決を行う時、担当の方よりスタッフのやる気の出るプレゼンをとの話で、実際介護を行うのはスタッフなので、スタッフのモチベーションを上げる動機付けが肝心だと気付きました。また介護を行なう上でも指導を行なう上でも根拠の重要性を感じ、「地域の中でいかに自分らしく暮らし続けられるか」また認知症の「人」として地域の中で支えるかを深く考え実行する研修となりました。微力ながら虹の家の理念を尊重しながら地域の中で暮らす事の力になればと思ひます。

認知症ケア最前線 Vol 23

『認知症の人と地域』を読んで 古谷田恭子

今回、4つの施設の地域との交流についての密着取材を読みそれぞれの地域性を生かしたいろいろな取り組みがされていることを知りました。

利用者様が主役ではあるのですが、まずはスタッフが地域の方と顔見知りになり、仲良くなることが大切であり、挨拶はもちろんのことその後のひと言の声かけが必要であると思ひました。特別な形の地域への働きかけ以外に自然な形で交流が持てたらと思ひました。「地域の人々が自由に来て利用者の方とおしゃべりして帰る」を目指すというさくらホームお家の取り組みは、スタッフの顔を覚えてもらう事から始めたとのことでした。又、春日デイサービスの取り組みは、

- ・ 利用者様に役割を担っていただく
- ・ 利用者様の得意なものを地域に発信する。

とありました。

地域の方と利用者様のお互いが発信したり受け取ったりを続けられたらと思ひました。

虹の家では、サロンやたまりんば、見守りネット、バザー、夏祭り、文化祭、防災訓練等々・・・地域密着です。簡単なことと感ずる地域への挨拶や声かけは徹底することが大事で、スタッフ全員がその意味を理解し、一丸となつて地域へ心を向けることが大切と思ひ努力していきたいと思ひます。

職員紹介

介護スタッフ

徳永八重子

印西 在住

昨年12月より介護スタッフとして勤務させて頂いております。

在宅のヘルパーをしていたので、デイはどうなんだろう？と少し不安でしたが、先輩スタッフの方々に色々教えていただき、ご利用者の皆様からは、若かった頃のお話、戦争のお話など、色々うかがう事が出来、貴重で楽しい日々を過ごさせて頂いて居ります。

これからもご利用者の皆様から沢山のお話を聞き勉強していきたいと思ひます。